

# 非現実の王国で ヘンリー・ダーガーの謎

2008(平成20)年2月22日鑑賞<GAGA 試写室>

★★★



監督・脚本・プロデューサー＝ジェシカ・ユー／プロデューサー＝スーザン・ウェスト／ナレーション＝ラリー・パイン、ダコタ・ファニング（トルネード・フィルム配給／2004年アメリカ映画／82分）

……ヘンリー・ダーガーって誰……？ それは、1973年に死亡した彼のアパートの部屋の中に残された膨大な原稿と挿絵が、その20年後に高く評価された孤高のアーティスト！ 40年間周囲との交流もなく、孤独の中で書き続けた物語は、まさに彼の頭の中に創造した「非現実の王国」。さて、そこに描かれる「ヴィヴィアン・ガールズ」の物語とは……？

ヘンリー・ダーガーと言われても、そんな人物を知っている日本人はほとんどいないのでは……？ アメリカでも、40年間ずっと過ごしてきたシカゴ市内の賃貸アパートで彼が1973年4月13日に死亡した後、大家のネイサン・ラーナーが部屋を片づけてしまったら、そしてまた『非現実の王国で』という題のついた物語の原稿と挿絵を発見しなければ、ヘンリー・ダーガーの名は永久に残らなかったはず。

ネイサンが発見したのは、15冊、15000頁を超える原稿と数百枚の挿絵。プレスシートによればネイサン自身が芸術家だったため、彼はこの作品に興味をもち、ダーガーの著作と絵を保存し、25年以上も部屋を維持し続けたとのこと。さらに、ネイサンは研究者を招き入れ、ダーガーの作品の評価の確立に尽力したため、ネイサンが亡くなって10年経った今、ダーガーは「20世紀アメリカの最も重要な美術作家のひとり」と言われるようになったとのことだ。

こんなすごい物語がドキュメンタリー映画に！

『非現実の王国で』の正式なタイトルは、『非現実の王国として知られる地における、ヴィヴィアン・ガールズの物語、子供奴隷の反乱に起因するグランデコーアンジェリニアン戦争の嵐の物語』という長ったらしいもの。そこでさて、主人公となる七人姉妹のプリンセス「ヴィヴィアン・ガールズ」とは……？ また、射撃の名手にして変



© Diorama Films LLC. All rights reserved

## 第2章

### 面白くて勉強になる

装の名人「グランデリニアン」とは……？ また、長い尻尾と羊の角をもつ怪獣「ブレンギグロメニアン」とは……？

1892年シカゴに生まれたダーガーは、17歳の時（1909年）から清掃人の仕事をしながら『非現実の王国』に着手し、以降81歳で亡くなるまで孤独の中でその製作に没頭したとのことだ。

この映画は、孤独なおじさんの姿を周囲の人々の目を通していろいろと論評しているが、それを聞くだけでダーガーの引きこもりぶりがよくわかる。つまり、彼が生きたのは現実のシカゴではなく、まさに「非現実の王国」。すなわち、彼が想像の中で作りあげ、生涯書き続けたヴィヴィアン・ガールズの物語の中に生きていたわけだ。

ジェシカ・ユー監督は、そんなダーガーをラリー・パインとダコタ・ファニングのナレーションを軸として紹介していく。また、スクリーン上では、ダーガーが描いたたくさんの色鮮やかな変わった(?)絵を次々と表示しながら、また時にはアニメの手法でそれを動かしながら、ダーガーが創造したストーリーを紹介していく。

それはダーガーが残した膨大な原稿と挿絵の一部だが、私を含めた多くの観客はダーガーという人物のものすごさに強烈なインパクトを受けるはず。よくぞこんな作品を保存したもの、またよくぞそんな作品とそんな人物に光をあてたものと感心するとともに、いいものを見せてもらったと感謝！

2008(平成20)年2月23日記